

What's up

国際交流協会青年部

Mail : kokusaikoryuseinenbu@yahoo.co.jp

メンバーの今 パート3

新型コロナウイルスが世界中を騒がしている中ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。自粛ムードのため青年部としても今年度はまだ集まれていませんが、今回もこの第3号通信でメンバーの近況をお伝えしていきます！

まずは **本多先生** から！！

思い起こせば20年前、中山中学校に転勤した私に、当時の山根浩校長先生が、「本校はテメキュラと素晴らしい交流をしている。よろしく頼むぞ。」と声をかけられました。その時からずっと、私とテメキュラとのつながりが続いています。中山中の後、大山中にも勤務しましたが、ここでも続けて交流事業に携わらせていただきました。私自身は、2001年に生徒6名と共に、はじめてテメキュラに滞在しました。その後も、ホストファミリーとは、お互いに姉妹のような関係が続き、16年後の2017年、今度は個人的にテメキュラを訪れ、ホストファミリーとゆっくり過ごすことができました。私にとって、テメキュラは今や第2のふるさとのようになっています。また、この交流を通して、金子幸造さん、裕子さんという、素晴らしい友を得ることもできました。お二人の力なくして、このような交流はできなかつたと思います。本当に、感謝しています。

さらに、青年部まで結成されたことも、本当に嬉しく思っています。一度訪問して終わりではなく、その輪を広げていけるきっかけになるはずです。テメキュラとの距離は遠く離れていますが、心の近さを感じています。ぜひ、このつながりを大切にしていましょ。



江原 紗希



私は高校卒業後、大阪の大学に進学しました。

大学ではスポーツ系の学部で学んでおりました。

中学校でのテメキュラ研修をきっかけに海外に興味を持ち、大学でもニュージーランドに3週間程短期留学にいきました！とても視野が広がる体験となりました！

現在は大阪で営業の仕事をしております。

テメキュラ等の経験から色んな人と話すこと、また、会話や経験から視野を広げることの楽しさを学び、今に生きていると思っております！

これまでの出会いを大切にしつつ、これからもどんどん出会って視野を広げることが大切になります！

必ずまたテメキュラに行って感謝と成長を伝えたらなと思います！

身近な人がテメキュラに行って、楽しかった話や勉強になった話、いろんな話をしているのを知って私も行ってみたい！と思って応募したテメキュラへの交換留学。ホームステイで自分の事や日本の事を頑張って伝えようと電子辞書片手に話していたのが懐かしいです。観光旅行ではたくさんの所に連れてってもらい今思っても遠く貴重な体験をさせてもらったなと思います。その後何度か友人と海外旅行に行きましたが、まだテメキュラ再訪問はできていません。

現在は看護師として働いています。今は2人目の育休中で育児と家事で毎日があっという間に過ぎていきます。英語に触れる機会がないため最近こっそり携帯のアプリで英会話を勉強中です。今度は自分の家族もテメキュラや海外に連れて行って子供達にもたくさん経験する機会を作れるように頑張ります。

田端 真美 (旧姓：谷野)



山本 達也

こんにちは、山本達也です 2019 年で 27 歳になりました。

現在は金属加工を行い工具を造る会社で働いています。

26 年ぐらいは地元の旧中山町に住んでいて昨年約 1 年間は大阪でものづくりの勉強をしていました。

最近好きなことは、お酒を飲んだり、焼き鳥を食べたり、あと、料理や映画鑑賞することです！

変わったことは特にないかも知りませんが、時々テメキュラに行ったことも思い出します。

向こうの家庭で初めてビリヤードを教えて貰って好きになって、それは今でも変わりません！

当時、テメキュラに訪問したのは 15 歳くらいでしたでしょうか。あれから 12 年間。経験と共に色々と価値観も変わったような気がします。

新たな発見と、楽しくて穏やかな日々が続くといいなと思う今日の頃です。

大学進学と同時に離鳥し、現在は東京都で働いています。

20 年位前にテメキュラへ行かせていただきました。皆さんは自分が初めて会った外国の方を覚えていらっしゃいますか？私は 4 歳か 5 歳の頃、大阪の親戚の家にホームステイしていた留学生が、人生で初めて会った外国の方だと記憶しています。いまは大山町内にも就労で居住する外国の方もいるとか。本当にグローバル化が進んだものだと思います。当時の私は、主に日本海新聞の一面に載る国際情勢のニュースに興味を持っていました。そうはいっても鳥取で生まれ育った私は、違う国があるということにどうしても実感が湧いておらず、「外国の人の役を誰かが演じてるんじゃないか!？」とかとか、まあとんでもない勘違い少年でした。

そんな認識が根本的に変わったのは、やはりテメキュラへの派遣でした。何が一番違うかということ、外国人がたくさんいて、我々日本人が少数派、という状況でした。文化も気候も何もかも違い、外国が実際にあるんだということを実感しました。現在の私は、休暇を利用して遺跡巡りや各国のお酒を飲み歩いています。また、割とよく帰鳥して、鳥取の自然に癒されています。

手島 幸太



東京の人の多さには今も慣れず、大山の雰囲気が一番心が落ち着きます。上京したら海外のことに触れることが多くなるのだから、小さいころにもっと自分の生まれ育った鳥取について勉強しておけばよかったと、少し後悔しています。2020 年代は大変な状況になりそうですが、落ち着いたら、また行ったことのない国や地域に出掛けてみようと思います。

最後に当時、お金を出して、貴重な経験をさせてくださった大山町と両親に感謝です。